校長室の窓から

梅雨＝「天気の悪い日」？

６月に入り、雨の日が多くなってきました。テレビの天気の番組を見ても、「梅雨に入り、『天気の悪い日』が続いています。･･･」という言葉をよく耳にします。たしかに、雨が続くと、家の外に出るのも億劫（おっくう）になるし、体の調子もすぐれず、心が少し暗くなってしまう時もあります。しかし、雨が降らないと、畑の作物も育ちません。生活に必要なダムの水・井戸の水も貯まりません。こうして考えると、「雨」＝「悪いもの」という見方・考え方を変える必要があります。学校でも、子供達に何か指導（注意）しなくてはいけないとき、私たちは、短い言葉で要点だけ短く伝えることが大事だと考えてきました。しかし、先日、「最近は短く言うことが多いが、長い文で伝えることが必要なのでないかと言われている。」という話を聞きました。また、同じ場で別の人からも、「アグネスチャンの子育ての中で、『子どもを叱るとき八時間も叱ったことがある。悪い言葉を使わずに、子どもが納得できるように（納得するまで）説明することが大事だ。』という話を聞いたことがあります。」と教えてもらいました。どちらも、子供達に長い文（言葉）を聴き、その意味を理解する力を身に付けさせる重要性について語られたものです。

私たちは、物事を判断するとき、自分の視点からだけで判断する癖がありますね。子供が手悪さをするという行動を取っている時、それが「悪いこと」と決めつけるのではなく、もしかしたら本人は、心を落ち着けるためにしている動作かもしれません。「これをしたらどうなるか（たとえば、「三角定規のこの角とこの角を合わせると直角になるかな？」なんてこと）を考えているかもしれません。このような子供の心の内面を知ろうとすることが私たち大人の大事な仕事です。

学校では、今、「聴くこと」や「質問すること」を大事にした取組を進めていいます。「聴くこと」により相手と自分の考えを比較することができます。そして、異なる考えだったら、よくわからなかったら、「質問して」、とことん、「わかろうとすること」により、よりレベルアップした自分の考えをつくっていく子供達を育てていきたいと思います。

校長　　田丸　栄